

図書館司書が選ぶ

こんな時、この一冊。



読書の目的は人それぞれ。本は、嬉しいとき、辛いとき、悲しいときなど、様々な場面であなたを支えてくれるでしょう。

山梨県内の図書館司書が選んだ「こんな時、この一冊。」新しい本との出会いの参考にしてください。



図書館司書が選ぶ こんな時、この一冊。

前向きになりたい時に

『MORNING LIGHT』

吉村 和敏／著 小学館

写真家吉村和敏氏による世界中の夜明けを集めた写真集。水面に映る朝焼け、山から差し込む日の光。暗闇を黄金色に染め上げる朝のひと時を眺めることが出来ます。気分が落ち込んでいるときでも、夜明けの空を眺めていると清々しく晴れやかな気持ちになります。前向きになりたい時に、そっと背中を押してくれる一冊です。(中央市立図書館)

美しい四季を言葉で感じたい時に

『二十四節季と七十二候の季節手帖』

山下 景子／著 成美堂出版

毎年のように異常気象という言葉が聞こえてきます。寒暖差が激しく、ゆっくりと季節の変化を感じるということができなくなっています。しかし、日本は美しい春夏秋冬のある国です。四季折々の自然の美しさをそのまま言葉に写し取って行った日本人の素晴らしい感性、美しい四季を言葉で感じてみませんか？

(南アルプス市立中央図書館)

楽しい旅をしたいと思った時に

『パイパーさんのバス』

エリナー・クライマー／作 徳間書店

バスの運転手パイパーさんは、動物たちをバスに乗せて旅に出ます。動物の引き取り手を探す旅に、大きな声で歌を歌いながら広い草原を走ります。登り坂あり、下り坂あり、あらしの夜もあり……。心優しいパイパーさんの楽しくてほのぼのしたお話です。こんな旅はいかがですか？ (忍野村立おしの図書館)

童心に戻って、魔女になりたい時に

『リューンノールの庭』

松本 祐子／作 佐竹 美保／絵 小峰書店

子どもの頃の夢は、魔女になることだった。大人になるにつれ、魔法が空想と知るけれど、魔女のような(例えば『西の魔女が死んだ』のおばあちゃんのような)暮らしたいという思いは持ち続けている。この本を読むと、この世にも不思議な力が隠れているのかもと思えてくる。道端に咲く花は、金色乙女草かもしれない。

(甲府市立図書館)

日本をもっと知りたいと思った時に

『子どもと楽しむ日本びっくり雑学 500』

西東社編集部／編 西東社

「十五夜にお月見をするけど十三夜にもするの？」と思ったことはありませんか？ 生活の中のちょっとした疑問や、赤色でおなじみの郵便ポストは昔は黒色だった！和食と日本食は違う！？など、思わず人に教えたくなるびっくり雑学が500掲載。家族や友人と楽しみながら日本の文化や偉人について知ることが出来る一冊です。(甲州市立塩山図書館)

不思議なことわざをじっくり楽しみたい時に

『誰も知らない世界のことわざ』

エラ・フランシス・サンダース／著 創元社

文章を書く機会が減ってきた今。「この表現は正しいのか」「こんな言葉は存在しているのか」と不安になることがある。この本をみて、予想以上に世界はユニークな表現であふれていることを知った。ページをめくるたびに現れる、オシャレでちょっと笑えてなんだか奇妙・・・そんなことわざ達を、いつか使ってみたいと思う。(笛吹市一宮図書館)

最近手紙って書いてないなあと思った時に

『フェリックスの手紙』

—小さなウサギの世界旅行—

アテッネ・ランゲン／話

コンスタツァ・ドロップ／絵

ブロンズ新社

手紙を最後に書いたのはいつだったか、もう思い出せないほど「手紙離れ」をしているこの頃。ふと思いついて幼少期にお気に入りだったこの絵本を手にとってみたら、忘れかけていた「封を開けるワクワク感」が蘇ってきました。読了後は、文具店で便箋を眺め「あれもこれもいいわ」と楽しむ自分が。大人にもお薦めの一冊です。(山中湖情報創造館)

子育てに疲れた時に

『みんなあかちゃんだった』

鈴木 まもる／作 小峰書店

目が離せない時期の乳幼児、親だって疲れます。そんな時、新生児から3歳児くらいまでの子どものイラストとそれに添えられた一言で埋めつくされたこの本をめぐってみませんか。「あっ、うちと同じ」と思いながら見ていくうちに、育児に追われてくたくたな毎日、何だか今だけの特別な宝物に思えてくるかもしれません。(笛吹市一宮図書館)

着る服に困った時に

『エンディングドレス』

蛭田 亜紗子／著 ポプラ社

最近手放してしまった服はありませんか？筆筒の中で眠ったままの服はありませんか？何を纏って生き、何を纏って死ぬか。その選択は貴方に委ねられているにも関わらず、周囲から年相応の服装を求められているような気がしていませんか？好きな服を着て生きることを諦めてしまった方に、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。
(笛吹市一宮図書館)

恋をはじめたくなった時に

『これもすべて同じ1日』

銀色 夏生／著 角川書店

夏生さんが独特の感性で紡ぎ出す言葉一つひとつに感動しました。“愛”をテーマに絆、別れなど心の流れや自然への思いがやさしいなげない言葉でつづられ、素直に心に染み入りました。
(笛吹市御坂図書館)

心地よく眠りにつきたい時に

『ねむたいひとたち』

M.B.ゴフスタイン／著 あすなろ書房

夜、忙しい1日を終えほっと一息。明かり少し落とした部屋でゆったり読むと、たちまちこちらまで「ねむたいひと」に。これは手のひらサイズの小さな本に収められた小人の家族のおはなし。とてもあたたかく、幸せな気分です。眠りの世界へ誘います。
(北杜市立小淵沢図書館)

何か新しいことを始めようと思った時に

『ガンジス河でバタフライ』

たかの てるこ／著 幻冬舎

この本は20歳にして、初めて海外へのひとり旅に出た著者の痛快な紀行エッセイ。著者の行動はとて真似出来ないが、元気と勇気を与えてくれる本です。旅に限らず、何か新しい事に挑戦しようと思っている人の背中をそっと押してくれます。「初めの第一歩、万歳！！」
(笛吹市御坂図書館)

言葉の海に溺れたい時に

『図書館の魔女』

高田 大介／著 講談社

言葉の海に思う存分溺れたい！そんな時におすすめするのがこの一冊です。言語学者である著者の知識が作中でもふんだんに披露されていて、言語とは何か、言葉とは何か？と考えさせられます。もちろんストーリーも面白い！学術の対象としての言葉と、物語を紡ぐ言葉。この一冊から溢れる言葉の海で、溺れてみませんか？
(笛吹市春日居ふるさと図書館)

もう！頭がパンクしそう！！な時に

『あたまをなくしたおとこ』

クレール・H・ビショップ／ぶん

ロバート・マックロスキー／え

瑞雲舎

この男、頭がパンクしそうに悩んでいるんです。だって、朝、目を覚ますと・・・頭がないんだもの！！あっちこっち探しても無い無い無い！そもそも、頭がなくて目が覚めるの？とか、悩めるの？なんて事は気にしない気にしない。奇想天外なお話とおしゃれな挿絵で、パンクしそうに気持ちいい風を送りましょう！
(富士吉田市立図書館)

勇気をもらいたい時に

『ブレイブ・ストーリー』

宮部 みゆき／著 角川書店

自分の運命を変えるために異世界に旅立った主人公は願いを叶えるという運命の塔を目指すことになる。それは魔法、剣、モンスターが存在する世界での冒険のはじまりだった。様々な苦難を乗り越えた先で待っていたものとは・・・。上手いかないこともあるけれど一生懸命、前に進んでいく主人公に勇気をもらえる一冊。
(甲斐市立竜王図書館)

自分は上手く話せないな・・・と落ち込んだ時に

『わたしのそばできいていて』

リサ・パップ／作 WAVE 出版

主人公の女の子は、字を上手く読めないことを笑われ、努力しても上手くなれず、評価されない事に傷ついていた。私は小さい頃サ行が言えずからかわれ、人前で話す事が苦手だったが、急かさず聞いてくれる家族や友人に話す事で救われている。この本の様に人間でなくとも、じっくりと聞いてくれる存在は癒しになるのだろう。
(笛吹市春日居ふるさと図書館)



新しいことを学びたいと思った時に

『究極のサバイバルテクニク』

ベア・グリルス／著 朝日新聞出版

豊かな自然の中で育った私の子ども時代のあそび場は野山。遊びに夢中になって川に落ちたり、崖をずり落ちたり危険なこともしばしば・・・その当時は大事に至らなかったが、いつ何時何が起こるかわからない！サバイバルの基本から危険回避法など、緊急事態に焦らないためにスキルを身に付けよう！
(大月市立図書館)

心温まる本を読みたい時に

『桜風堂ものがたり』

村山 早紀／著 PHP 研究所

よく通っていた書店が閉店してしまい、寂しく感じていた時に会った本。登場人物が皆優しく、読み終わった後とても心が温かくなる。この物語に出てくるような、人の温かさに触れることができる書店をまた見つけたいと思う。
(笛吹市御坂図書館)

美味しいものが食べたい時に

『やっぱり食べにいこう。』

原田 マハ／著 毎日新聞出版

『暗幕のゲルニカ』や『楽園のカンヴァス』等、アートをテーマにした小説を書く著者が、その取材旅行の道中に出会った美味しいものを紹介。フランス・パリのバゲットに京都の夏の和菓子、神戸のとんかつ……。美術館勤務を経て作家になった著者が綴るアートとグルメをめぐるエッセイ。
(都留市立図書館)

(同) 世代の悩みにぶつかった時に

『東京ドーン!』

早見 和真／著 講談社

30代の仕事、人間関係をありのまま描いた小説。ちょっとズルかったり、逃げてみたり、衝突してみたり……と共感できる場面が多く、読む内に心の整頓(とまではいかないが)自分なりの考えや解決策がふっと浮かぶ一冊。
(笛吹市一宮図書館)

とにかく笑いたい時に

『風と共にゆとりぬ』

朝井 リョウ／著 文藝春秋

「小説家」……なんとなくベールに包まれた存在だと思っていました……。直木賞作家、朝井リョウ、こんなにおもしろい人なの!? テンポよく繰り出される自らの失敗談や、日常に起こるおかしな出来事、情景が目につかび、思わず笑ってしまいます。朝井リョウの愛しき日常をつづるエッセイです。
(笛吹市御坂図書館)

歴史を学びたい時に

『歴史を味方にしよう』

童門 冬二／著 PHP 研究所

歴史小説などの本を数多く執筆している童門冬二さんが、歴史上の人物や出来事などを様々な切り口でわかりやすく解説しています。今、歴史を勉強している人も、興味はあるけど難しそうと思っている人にもおすすめの入門書。初歩的なことからそれは知らなかったと思うようなことまで楽しく学べる一冊です。
(身延町立図書館)

野菜づくりを楽しみたい時に

『いちばん親切でよくわかる 有機・無農薬で家庭菜園』

阿部 豊／著 家の光協会

家庭菜園を家族で楽しみませんか?本書は、野菜づくりの手順やコツを初心者にもわかりやすく写真とイラストで紹介しています。自分で栽培し、収穫した新鮮な野菜は、格別なものです。これから家庭菜園をはじめたい方、大地の恵みを実感したい方におすすめの一冊です。
(上野原市立図書館)

おなかをすかせたい時に

『亡命ロシア料理』

ピョートル・ワイリ／著

アレクサンドル・ゲニス／著

未知谷

東西冷戦期に旧ソ共産圏からアメリカに亡命した2人組文芸評論家が故国とその料理を懐かしんで書いた慨嘆と郷愁の1冊。ボルシチやビーフストロガノフ、ロシア風餃子ペリメニといったさまざまなロシア料理を詳細な調理法とエスニックジョークを交えて紹介。料理を通じてそれぞれの歴史や文化が見えてくる1冊です。
(山梨市立図書館)

別におちこんでいるわけじゃないんだけど 気分が晴れない時に

『老子と荘子のまあるく生きるヒント』

河出書房新社／編集 河出書房新社

優秀な電化製品の普及により便利さが当たり前になる世の中。幸せを感じにくくなっていませんか?ふとした瞬間に何となく生きにくさを感じられることはありませんか?「癒し」という言葉、昔は今程聞かなかったように思います。すっきりとしないアンニュイさを感じたら、パンダを見るつもりでこの本を開いてみてください。
(笛吹市春日居ふるさと図書館)

身近なひとが介護を必要とされた時に

『泣き方をわすれていた』

落合 恵子／著 河出書房新社

人には様々な人生がある。これまで歩んできた道を振り返り更に今後の日々について思いを巡らせる時、現実としてふりかかる介護問題は他人ごとではない。小説は、著者落合恵子さんの在宅介護の実体験が綴られた渾身の書。親を看取る中で悩み考えた言葉の数々は優しく強く心に響く。人生とは・愛するとは・親とは。そんな時手にしてほしい一冊。
(南部町立図書館)



「図書館司書が選ぶ こんな時、この一冊」
2018年9月 山梨県立図書館発行

